





「お家のまわりのしぜん」

鳴門教育大学附属小学校 町口 美千代

はじめに：2学年の生活科の学習では、自分たちの学校のまわりの探検をして、主な通りや店、公共のしせつ、田畑などを工夫して、わかりやすく絵地図にまとめる学習をしてきている。

その経験を生かし、絵を描くことの大好きな萩原さんはご家族の協力のもと、地図展への応募をしようと考えた。

テーマの選択について：自宅周辺には、水田や蓮畑、芋畑に養鶏場など、田園風景が多く残っている。これら多くの自然が残っていることに着目し、テーマを「お家のまわりのしぜん」として、一番身近な家の周辺を描くことにし、手作り地図の制作に当たった。

作品について：〈手順〉(1) 道路や土地の区割りの線など、輪郭を書く。(2) 白地図のベースマップを作る。(3) 建物や土地利用の様子を描く。(4) 同じ土地利用の所には同色で着色する。〈苦労したことや工夫点〉父親の車で、複数回実際に出かけて、見たことを克明にメモをしてから描いた。そのため、毎日1～2時間を費やし、数日かけて完成した。また住宅地図を手元において、模写したので、道路の幅などはほぼ一定に描けている。

終わりに：萩原さんは、絵や文字が美しく、いつも最後まで丁寧に仕上げてできている。先日も、徳島県の「人権問題に関するポスター展」に入賞したばかりである。物を見つめる目が優しく、動植物に対してもそれは同様で、生き生きと自宅周辺の田園風景を表現し、とても素敵なお絵地図が出来上がった。

作者の話：鳴門教育大学附属小学校3年

萩原菜々子

〈地図を描くのに苦労したことや工夫したところ〉わたしが苦労したところや工夫したところは、たくさんの色をどこに何色をぬめるのか考えながら、えがいたところです。細い道は細く、太い道は太くかいたところも苦労しました。くふうしたところは、地図の中にいる生き物です。水の中にいる魚は同じ色でしたので、本物に見えるようにかきました。お米やれんこん、おいもは、大きさや高さをよく見て、本物らしくかきました。

いつも車で通りすぎていく道をゆっくり歩きながら、ときには立ち止まっていろいろな発見をして楽しく完成させました。
